

サイバーセキュリティ戦略本部
研究開発戦略専門調査会
第16回会合 議事概要

1. 日時

令和3年3月23日（火） 14:00～15:00

2. 場所

Web会議形式での開催

3. 出席者（敬称略）

（会長）	松本 勉	横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授
（委員）	上野 裕子	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 経済政策部 主任研究員
	鵜飼 裕司	株式会社FFRIセキュリティ 代表取締役社長
	小熊 寿	トヨタ自動車株式会社 コネクティッド先行開発部 InfoTech セキュリティグループ長
	木村 康則	国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー
	小松 文子	長崎県立大学 教授
	戸川 望	早稲田大学理工学術院 教授
	奈良 由美子	放送大学 教授
	森 達哉	早稲田大学理工学術院 教授

（事務局）	高橋 憲一	内閣サイバーセキュリティセンター長
	松本 裕之	内閣審議官
	山内 智生	内閣審議官
	江口 純一	内閣審議官
	吉川 徹志	内閣参事官
	上田 光幸	内閣参事官
	小西 良太郎	参事官補佐
	篠田 陽一	サイバーセキュリティ参与
	中尾 康二	サイバーセキュリティ参与
	八剣 洋一郎	情報セキュリティ指導専門官

（オブザーバー）	内閣府	科学技術・イノベーション担当
	警察庁	
	総務省	
	文部科学省	
	経済産業省	
	防衛省	

4. 議事概要

(1) 研究・産学官連携戦略ワーキンググループ最終報告 及び サイバーセキュリティ研究開発戦略 について

ワーキンググループ (WG) 主査である森委員からの資料 1-1 から資料 1-2 による最終報告の説明、事務局からの資料 2-1 から資料 2-4 によるサイバーセキュリティ研究開発戦略 (改訂案) の説明を受けて、意見交換が行われた。概要は以下のとおり。

- ワーキンググループ最終報告、研究開発戦略改訂案のいずれも、多面的・意欲的、かつ的確なとりまとめとなっていると思う。改訂案に新たに追加された章は、人材育成に関する方策や重点的な研究領域など、本分野に不可欠な提案が盛り込まれている。我が国の強みを活かした産学官エコシステムの構築をうまく推進して欲しい。また紹介のあった JST 事業等を活用し研究コミュニティが発展することを期待している。(戸川委員)
- 双方とも大変素晴らしいと思う。産学官連携の相手として海外のプレーヤーも含まれてくるだろう。海外を参加させる場合、日本に法人がある機関に限るのか、なくとも参加を OK とするのかや、知財も含めて研究開発の成果の帰属はどうするかなど留意点があろう。一部の省庁では公募規定に定め始めている。関係省庁による産学官連携による共同研究強化のためのガイドラインとモデル契約書があるが、国際共同研究の観点で、関連のガイドラインの改訂が昨年行われた。サイバーセキュリティ分野は、安全保障が特に重要な分野でもあるので、今後 NISC において国際連携の際の本分野特有の課題について何らかのガイドラインを示すことも重要ではないか。(上野委員)
- 産学官エコシステムの構築など方向性としてよいと思う。産・学の役割は多く記述されているが、官はどうするのか今後議論が進めばよいと思う。例えば、NICT や産総研といった国立の研究機関が持つ強みもあろう。それを活かした活動なども考えられる。(小熊委員)
- 異存なく大変結構と思う。産学官エコシステムの駆動が重要と考えており、改訂案に賛成。特に、新章 3 節の研究コミュニティの発展に向けたポジティブなメッセージが評価できる。一方で、官がどのような取組をコミットするのかが見えづらい。敢えて記述していないと思われるが、一般の国民目線では素朴に疑問に思われるところ、疑問に答えられるよう説明できるようにするとともに、今後の反映等で検討を進めていただきたい。(奈良委員)
- 戦略的創造推進事業については、NII や情報処理学会との検討の結果、戦略目標の 1 つとして策定に至った。うまく活用いただき、大きな流れにつなげていきたい。研究開発戦略のスコップではないと思われるが、研究実験環境については、現状ではトイ環境での実験で十分な実験が行えない面もあるところ、研究コミュニティとして検討を深めていく必要があると思う。また、官の役割として、安全保障の観点から、国産技術育成を国がリーダーシップをもって進めていく意識があってもよいと思う。米国では DARPA が積極的な取組を行っ

ている一方で、日本ではなかなか進んでいない。(木村委員)

- 素晴らしい形でとりまとめられたと思う。特に産学官連携は、産業界としても盛り上げていきたい。これが盛り上がると、次には安全保障の論点がある。海外企業と連携する場合、基本的価値観を共有している会社であればよいが、実際には相手がどのような考え方を持っているか、見えにくい部分もあり、心配もある。今後のテーマとして議論できればいいのではないか。(鵜飼委員)
- アカデミアの側からの要望だけではなく、アカデミアにこうしてほしいというメッセージを発するものであり好感が持てる。一方で、今後のフォローアップが重要であり、特に本文書を産業界にちゃんと読んでもらえるのか心配している。CSS2020 で特別セッションを設けたように、産業界も入っているコミュニティに対し、継続的に発信することが重要。(小松委員)
- 研究倫理をはじめ、研究者同士でこれまで活動してきたことが取り上げられ、一つの形としてまとまったことは産学官連携の次ステップの布石として良い形になったと思うとともに、安心した。(寺田委員 ※事務局よりコメントを紹介)

意見交換を踏まえ、サイバーセキュリティ研究開発戦略(改訂案)のとりまとめについて、会長一任となった。

以 上